

会議議事録

事業名	平成26年度 「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人 全国専門学校教育研究会

会議名	第3回 アクティブラーニング分科会																																	
開催日時	平成26年11月10日(月) 16:30~18:30																																	
場所	フクラシア品川 会議室C 〒108-0074 港区高輪3-25-33 長田ビル6階																																	
出席者	<p>①委員</p> <table> <tr> <td>岡村慎一</td> <td>専門学校YICグループ</td> <td>理事</td> </tr> <tr> <td>伊藤慎二郎</td> <td>学校法人穴吹学園</td> <td>理事・副校長</td> </tr> <tr> <td>小林昭文</td> <td>AL&amp;AL 教育研究所</td> <td>代表</td> </tr> <tr> <td>三谷徹男</td> <td>株式会社CRI 中央総研</td> <td>代表取締役</td> </tr> <tr> <td>信岡誠三</td> <td>穴吹医療福祉専門学校</td> <td>副校長</td> </tr> <tr> <td>長谷川綾子</td> <td>富山情報ビジネス専門学校</td> <td>学科長</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計6名</p> <p>②オブザーバー</p> <table> <tr> <td>小野紘昭</td> <td>(財)職業教育・キャリア教育財団</td> <td>理事</td> </tr> <tr> <td>永井真介</td> <td>富山情報ビジネス専門学校</td> <td>校長</td> </tr> <tr> <td>飯塚正成</td> <td>有限会社ザ・ライスマウンド</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計3名</p> <p>③事務局</p> <table> <tr> <td>下島耕一</td> <td>鹿児島情報ビジネス専門学校</td> <td></td> </tr> <tr> <td>飯塚久仁子</td> <td>有限会社ザ・ライスマウンド</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計2名</p> <p style="text-align: right;">参加者合計11名</p>	岡村慎一	専門学校YICグループ	理事	伊藤慎二郎	学校法人穴吹学園	理事・副校長	小林昭文	AL&AL 教育研究所	代表	三谷徹男	株式会社CRI 中央総研	代表取締役	信岡誠三	穴吹医療福祉専門学校	副校長	長谷川綾子	富山情報ビジネス専門学校	学科長	小野紘昭	(財)職業教育・キャリア教育財団	理事	永井真介	富山情報ビジネス専門学校	校長	飯塚正成	有限会社ザ・ライスマウンド		下島耕一	鹿児島情報ビジネス専門学校		飯塚久仁子	有限会社ザ・ライスマウンド	
岡村慎一	専門学校YICグループ	理事																																
伊藤慎二郎	学校法人穴吹学園	理事・副校長																																
小林昭文	AL&AL 教育研究所	代表																																
三谷徹男	株式会社CRI 中央総研	代表取締役																																
信岡誠三	穴吹医療福祉専門学校	副校長																																
長谷川綾子	富山情報ビジネス専門学校	学科長																																
小野紘昭	(財)職業教育・キャリア教育財団	理事																																
永井真介	富山情報ビジネス専門学校	校長																																
飯塚正成	有限会社ザ・ライスマウンド																																	
下島耕一	鹿児島情報ビジネス専門学校																																	
飯塚久仁子	有限会社ザ・ライスマウンド																																	
議題等	<p>1. 第2回AL分科会の議事報告</p> <p>2. アクティブラーニングについて(定義、授業例紹介) 教員研修プログラムについて(30時間、事前・実証講座・事後) 実証講座について</p> <p>3. 今後の日程確認 平成26年12月20日・21日 実証講座 全AL分科委員に案内予定 ※ご都合の良い日程・時間のみ</p>																																	

配布資料 前回議事録（第2回AL分科会）  
 アクティブラーニングの定義  
 「大学におけるアクティブラーニング調査資料」

議事内容の概要としては、以下の通り。

- ① 第2回AL会議 議事報告
- ② 12日に開かれる、実施委員会、開発・実証委員会、評価委員会での、AL分科会としての、発表内容及び担当者の決定
- ③ アクティブラーニングの事例として、大阪大学での「ドイツ語」の事例紹介

アクティブラーニングの定義について、またこのプロジェクトのテーマについて  
 職業実践専門課程の教員の質的向上を図るために最適な手法である  
 教育手法の開拓（実践）アクティブラーニング  
 教材、カリキュラム開発（理論）インストラクショナルデザイン  
 文科省が大学のALに対し今年度から補助金を出している  
 また、小中高校でのAL型授業が導入予定

ピアラーニング、質問会議、ファシリテーションについての説明

実証講座への、実施・開発・評価委員の案内について

ALの手法の一つである、反転授業について、賛否両論が存在することの説明  
 それに対する、小林先生からの説明

アクティブラーニングの文科省の言う定義は、ゆるい（広範囲の解釈）ので、この分科会での定義をどうするか検討

アクションラーニングについての説明  
 PDCAの説明（体験する、振り返る、気づく、再計画）  
 この繰り返しが大事

最良のリーダーとは  
チームの皆を巻き込むことが出来る  
役職権限等に関わらず、誰でも習得できるスキル  
AL型授業の教師は  
指導者ではなく、そばにいる案内人である  
良いタイミングでの介入（質問ができる）が重要

④ 12月20日・21日の実証講座に向けて討議

事前に行う、課題の提示（東京大学作成のeラーニング）が11月18日開始  
実証講座の準備の進捗状況  
事後講座の中身の見直し（年明けの授業時間が少ない）

今後のスケジュール説明

以上